

2025（令和7）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1470801208	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	社会福祉法人横浜長寿会		
事業所名	グループホームぬくもりの家・金沢文庫		
所在地	(236-0014) 神奈川県横浜市金沢区寺前2丁目23-35		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名 エント数 1 エント
自己評価作成日	令和8年2月4日	評価結果 市町村受理日	令和8年5月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「ゆっくり・ゆったり・私らしく」を理念に置き、お一人お一人が自分らしさや誇りを持ちながら、安心でき、人の温もりを感じながら生活を送っていただけるように、心を込めてサービスを提供させていただいています。
やりたいこと・出来ることを大切にしながら、笑い声が絶えない毎日を皆さん送っています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和8年3月4日	評価機関 評価決定日	令和8年5月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

京浜急行線「金沢文庫」駅より徒歩12分、または金沢シーサイドライン「海の公園南口」より徒歩7分の閑静な住宅街に位置しています。近隣には称名寺、八景島シーパラダイス、野島公園があり、豊かな観光資源に囲まれた環境にあります。

<優れている点>

設立当初から掲げる「ゆっくり・ゆったり・私らしく」という理念が、20年を経た現在もケアの根幹として深く根付いています。日々の支援では、カルタや作品作りなどの個別レクリエーションに加え、洗濯物たたみや植栽の水やりといった日常の役割を重視しています。これらは利用者がやりたいことやできることを主体的に行う機会となっており、その人らしい暮らしに結びついています。また、地域の防災訓練における黄色い旗を掲げた安否確認への参加や、伝統行事である獅子舞、こども神輿の受け入れを継続しています。こうした活動を通じて地域住民との馴染みの関係を深めることは、単なる交流に留まらず、災害時などの相互扶助を可能にする安心な環境づくりに寄与しています。

<工夫点>

食器洗いや洗濯物たたみなどの作業をあらかじめ用意し、同時に声をかけ作業を分担することで、一人ひとりが役割を持って取り組めるよう工夫しています。これにより、自然な形で活動への参加を促し、生活の中での達成感や自信に結びつけています。また、キッチンが壁に面しているため、ミラーを取り付けて背後の利用者の様子を常に把握しています。作業中も視線を切らさない見守りを行うことで、安心感のある空間づくりに努めています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームぬくもりの家・金沢文庫
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	日常の中で、職員同士で「ゆっくりでいいよ」「急がなくていいよ」等声を掛け合いながら理念を実践しています。また、利用者への支援も同様に行っています。	事業所理念「ゆっくり・ゆったり・私らしく」は、20年前の設立時に当時の職員が作成し、現在までその精神を受け継いでいます。一連のケアの中で「ゆっくりね」と言葉をかけ、利用者が自分のペースでその人らしく生活できるよう支援しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、日常的に地域の一員として暮らしていけるように取り組んでいます。ご近所からお庭に咲いた季節のお花を届けていただくこともあります。	自治会に加入し、利用者も共に隣家へ回覧板を届けています。地域の防災活動では、災害時の安否確認訓練に参加しています。また、祭りの「こども御輿」や正月の消防団による「獅子舞」を玄関先で迎え入れるなど、地域に根ざした活動を継続しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	日常の生活での自然な触れ合いを通して、認知症があっても安心して生活を送っていけるという事を理解していただけるように取り組んでいます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	グループホームでのご利用者の生活の様子を知っていただき、ご家族や地域の方々から助言や情報をいただきながら地域と繋がりながらサービスを提供できるように取り組んでいます。	運営推進会議には自治会会長や地域包括支援センター職員、家族などが参加し、事業所側から活動報告や事故報告を行っています。地域包括支援センターからは各種イベント情報を得て、日々の支援につなげています。また、シティガイドを務める自治会会長から、地域の歴史や昔の様子などの講話を受ける機会を設けています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	研修の案内などの情報をいただき、参加しています。	グループホームや認知症への理解を地域に周知する活動の一環として、地域ケアプラザのイベントに利用者の作品を出展しています。金沢区が主催する感染症研修などの機会を活用しているほか、県と市の両方のグループホーム連絡会に加入しています。他事業所との情報交換や研修への参加を通して、日々の支援につなげています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	研修を行いながら、身体拘束が起こす弊害を知ること、利用者一人ひとりへの理解を深めることで、身体拘束をしないケアへと繋げています。	毎月の会議の中で身体拘束に関する研修を実施し、どのような行為が拘束や虐待につながるかを学んでいます。職員は日常のケアにおいて必要な知識を身に付け、身体拘束を行わない対応に努めています。また、2～3ヶ月に1度委員会を開催し、具体的な事例を挙げて検討を行っています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待についての理解を深め、スタッフが心に余裕を持って仕事に取り組むことが出来るように勤務内容を見直しながら取り組んでいます。	身体拘束と同様に研修や委員会を実施しています。スピーチロックや利用者を傷つけない言葉の使い方について話し合いを重ねています。職員の理解度は日頃の行動や対応を通して把握し、不適切な声かけがあれば注意を促すなど、虐待防止に取り組んでいます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護についての理解を深め、必要に応じて支援に繋げていけるように取り組んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に契約内容や重要事項についての説明を行い、不安や心配事、疑問などを聴きながら、利用者や家族が安心して入居生活を始められるよう努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	手紙や電話、家族来訪時など、日常の関わりの中で、話しやすい雰囲気を作り、なんでも伝えていただける関係づくりを行い、いただいた意見を日々の運営に反映させています。	「穏やかに過ごしてほしい」「できることをさせてほしい」といった家族の要望を受け、日々の生活に反映しています。音楽を流して自然に歌える環境を整えたり、趣味の三味線を披露する場を設けています。また、食器洗いや洗濯物たたみなどを複数の利用者に同時に促すことで、一人ひとりが持てる力を発揮し、役割感を持って取り組めるよう工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議や日ごろの会話で職員の意見、提案を聞き、皆で話し合いながら運営に反映させています。	会議や日常の業務を通して、職員の意見を聞き取る機会を設けています。キッチンが壁に面しており、台所仕事中に利用者の様子を把握しにくいという意見を受け、背後を確認できるミラーを設置しています。また、休憩を確実にとれるようにとの意見に基づき、専用の休憩場所を確保することで、心身ともに休まる環境を整えています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人の運営会議において、運営の状況や労働環境の問題や課題について検討し、職場の環境整備やスタッフの成長・育成をしていけるように取り組んでいます。	管理者は毎月法人本部へ赴き、事業所や職員の状況を報告することで必要な情報や助言を得ています。厚生面では、時間給職員に対しても「心付け」を支給する仕組みがあり、職員の意欲向上につなげています。管理者は日頃から職員の意見や思いに耳を傾け、働きやすい職場づくりに取り組んでいます。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ユーチューブやeランニングを利用しながら研修を行い、日々のケアを振り返り、より良いケアへ繋げていけるように取り組んでいます。	動画サイトを活用して法定研修を含む研修を実施し、レポートの提出により理解度や効果を把握しています。グループホーム連絡会から得た情報をもとに、内容に適した職員へ講座の受講を案内しています。また、初任者研修などの資格取得を希望する職員に対しては、シフトを調整して受講を支援しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修等に参加しながら、同業者との交流を持つ機会を設け、サービスの質の向上に向けた取り組みを行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の面接で利用者の情報を得、スタッフ間で情報を共有し生活を継続できるように取り組んでいます。また、利用初期には本人をよく知ることに努め、安心して生活を送っていただけるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前の見学や面接で、家族の不安や要望・思いを受け止め、安心してサービスを受けていただけるように努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前に本人・家族にお会いし、思いや生活習慣、趣味、嗜好等お聞きし、必要なサービスを提供出来るように努めています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	掃除、洗濯、調理等一緒に行い、利用者同士、職員共々暮らしを共にする仲間としての関係を築いています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の様子を細目に伝え、家族の思いをしっかりと聞き、互いに意見を交わしながら、共に利用者を支えていく関係を築いています。			
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	古くからの友人や、家族、親戚等来訪ししやすいような雰囲気作りを行い、馴染みの関係が途切れないよう務めています。	家族や知人の面会時には、居室でゆっくりと過ごせるよう配慮しています。入居前に経営していた店の常連客が訪れ交流を持つなど、以前からの関係を継続しています。家族の要望を受け、趣味の三味線を弾く場を設けたり、お気に入りの理髪店へ通い続ける利用者を支えるなど、馴染みの人との関わりや趣味の継続を大切に支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の一人ひとりの心身の状態や気分を把握し、利用者同士が馴染みの関係になれるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了するときには、本人の生活が断ち切れなうように、細かな情報の提供をしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、本人の発する言葉や表情などから思いや気持ちをくみ取り、家族からの情報も合わせ、本人の希望、意向の把握に努めています。	日常の関わりの中で、利用者の言葉や表情、生活の様子から思いをくみ取るよう努めています。職員が気づいたことや情報はリビングルームに設置したホワイトボードを活用して共有し、一人ひとりの思いや意向の把握に取り組んでいます。こうした日常的な情報共有を通じ、利用者の意向に沿った支援につなげています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にこれまでの暮らし方、生活歴等の情報を得、入居後も関わりの中で知ったことをスタッフ間で情報を共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	会話や表情、日々の記録、働きかけにより、現状を把握し、記録や会議などで全スタッフが把握できるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の関わりの中で、利用者や家族の思い、要望を聞き、会議の中で個々の情報について話し合い、本人にとってよりよい生活とは何かを考えながら計画を作成しています。	毎月第2火曜日の夜間に職員会議を開催し、利用者一人ひとりの状況を共有した上で、支援内容の確認や見直しを行っています。職員が持ち回りで議事録を担当するなど、全員で情報を共有し、支援の質の向上に取り組む体制を構築しています。会議での話し合いを通じて、チームによる継続的なモニタリングと介護計画の検討を推進しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の健康状態や食事摂取状況、過ごし方などを記録し、会議で話し合いながら実践や見直しに繋がっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者の思いや変化を受け止め、今、その人に何が必要かを常に考えながら取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ご近所との馴染みの関係を築き、地域の中で安心して生活を送っていただけるよう支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人・家族の要望を聞き、かかりつけ医を決めています。かかりつけ医には普段の様子や体調の変化等報告、相談をしながら、適切な医療を受けられるように支援しています。	内科医による月2回の訪問診療と、歯科医による月4回の診療体制を確保し、利用者が継続して医療を受けられる環境を整えています。日常の健康状態や体調の変化については、医療機関と密に連携して情報共有を行い、迅速な対応と健康維持に向けた支援に取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の健康管理をしっかり行い、体調の変化がみられた時には速やかにかかりつけ医に相談し、適切な医療を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者が付き添い、必要な情報を渡し、適切な入院治療が受けられるように支援しています。また、退院に向けた支援が出来るよう、病院関係者との情報交換を行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ホームで出来る事、出来ないことを説明し、家族・かかりつけ医・スタッフでその都度相談しながら方針を決め、スタッフ間で情報を共有しながら取り組んでいます。	重度化や終末期への対応は、利用者本人や家族の意向を丁寧に確認した上で、方針に沿った支援を行っています。昨年度は3名の看取りを実施し、苦痛が少なく穏やかに過ごせるよう、職員が通常以上に関わりを深めて支えています。また、終末期ケアに関する職員研修を実施し、チーム全体の支援技術や意識の向上を図っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時には、管理者にすぐに連絡し、指示に従い動けるようにしています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	同じ建物内の別法人のスタッフと顔見知りの関係を築き、災害時には互いに協力し合う関係作りを行っています。	同一建物内の知的障害者施設「サザンクロス」と、災害時の相互協力体制を整えています。町内会の防災訓練にも参加し、有事の際を想定した地域との関係づくりに取り組んでいます。また、備蓄リストを整備して必要な物資を管理するなど、災害への備えを推進しています。	備蓄品の数量を台帳等で明確にし、現状を把握することが望まれます。また、他部署と連携した合同訓練の実施など、より実践的な備えに向けた検討が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	会議の中で言葉の掛け方を確認しながら、一人ひとりの人格や誇り、プライバシーを大切に言葉かけが出来るよう努めています。	利用者一人ひとりの人格や尊厳を尊重した支援を実践しています。会議の議事録においても、利用者の尊厳に配慮し「失禁」といった言葉は使わず、「トイレに間に合わない」など事実に基づく丁寧な表現を用いるよう工夫しています。また、個人情報の取り扱いに関する規程を遵守し、利用者のプライバシーを保護する適切な対応を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	話しやすい雰囲気を作り、話の内容や表情から思いをくみ取り、本人が自己決定しやすいような声掛けや対応に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	表情や発する言葉、その日の体調や気分をくみ取り、一人ひとりの生活のペースに沿った支援が出来るように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	家で身に着けていたものを持参いただき、一人ひとりが、ご自分の好みの身だしなみ、おしゃれができています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の献立、食材については外部委託をしていますが、調理、盛り付け、後片付けを一緒に行い、食事を楽しむ支援を行っています。	食事の時間を楽しめるよう、おやつや餃子を利用者と一緒を作るなどの取り組みを行っています。食事介助の際には、職員がやさしく声をかけ、会話を交わしながら楽しい雰囲気づくりに配慮しています。日常の生活の中で、食事が潤いのある時間となるよう、一人ひとりの好みに合わせた工夫を重ねています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	活動の合間合間にコーヒーやお茶、スポーツドリンクなどを摂取していただき、水分量の確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床時、食後に一人ひとりに応じた口腔ケアを行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄を基本に、一人ひとりに応じた排泄の支援を行っています。	利用者一人ひとりの状態に応じた排泄支援を実践しています。個々の状況に合わせた細やかな支援により、リハビリパンツから普通の下着へ移行できた事例があるなど、自立に向けた取り組みを推進しています。また、排泄の失敗があった際にも速やかに対応し、利用者の尊厳に配慮した関わりを継続しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	十分な水分を摂っていただき、レクリエーションや個々に応じた運動などで体を動かしていただいています。また、かかりつけ医と相談しながら、個々に合った下剤を処方してもらっています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	無理なお誘いはせず、安心・安全な入浴を心がけています。入浴時の職員との1対1の会話も楽しんでいただけるように支援しています。	利用者の体調や希望を優先し、安全に入浴できるよう支援しています。その日の状態に応じて、浴槽での入浴やシャワー浴を選択するなど、心身に負担のない方法を採用しています。利用者が安心して入浴の時間を過ごせるよう、個別の状況に合わせた環境づくりに配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中は表情を見ながら、ご本人に確認しながら、休んでいただいています。また、日中は楽しく体を動かしていただき、夜はよく眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの薬の飲み方の表を個々の薬ケースに用意しています。また、薬剤師にアドバイスをいただきながら、服薬の支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	出来る事を奪わず、「ありがとうございます」の言葉を大切に、張り合いのある生活を送っていただけるよう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	陽気の良い日には散歩や外気浴、ドライブを行うなどしています。家族と外食に行かれる方もいます。	桜並木へのドライブなど、季節の移ろいを感じられる外出の機会を設けています。外出の際には、利用者の状況に合わせて職員が1対1で同行するなど、安全面に配慮した体制を構築しています。また、花火などの季節行事も取り入れ、日々の生活に変化と楽しさを提供しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	それぞれの意向を大切にしながら、家族と相談しながら支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	スマホ持参の方もいます。 ホームに電話があった際にはおつなぎし、時により職員が間に入り、会話を楽しんでいただけるよう支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしています。	家庭的な雰囲気作りに努め、居心地よく過ごしていただけるような空間づくりをしています。	リビングには季節に合わせた飾り付けを施し、利用者が日常の中で季節感を感じられるよう工夫しています。共用空間は日々の清掃を欠かさず、常に清潔で気持ちよく過ごせる環境を維持しています。また、誰もが毎日を明るい気持ちで過ごせるよう、家庭的な雰囲気づくりを大切にしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングでは利用者同士思い思いにお話をされていたり、テレビを観たり、思い思いに過ごされています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッド・照明・エアコン以外の家具はご持参いただいています。また、個々の動線に合わせて家具を配置し、安全にお過ごしいただけるように支援しています。	居室の清掃を日常的に行い、利用者自身も清掃に参加できるよう促すなど、生活の一部としての習慣を大切にしています。大掃除も実施し、良好な居室環境の維持に努めています。安全面においては、利用者の身体状況に合わせて手すりを設置するなどの環境整備を欠かしません。また、使い慣れた家具や愛着のある物の持ち込みを可能とし、一人ひとりが愛着を持って過ごせる住環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	会議で一人お一人の現在の状況を確認し、本人の不安や混乱を取り除き、自立した生活を送っていただけるよう環境整備を行っています。		

2025年度

事業所名

作成日：2026年5月20日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	16	備蓄品台帳が整備できていない	備蓄品台帳を整備し、災害に備える	備蓄品リスト作成し、必要な物資を管理していく	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月